

## 第4回全九州高等学校総合文化祭熊本大会 放送部門

### 第42回九州高校放送コンテストならびに校内放送活動研究集会 熊本大会

## 実施要項

#### 1 目的

現代に生きる高校生の豊かな人間性の育成と、未来への展望を持つ人間としての成長をめざし、あわせて、九州地区における校内放送活動の健全な育成と放送教育の推進をはかる。

#### 2 ねらい

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にする心情を育て、あわせて、話す力、表現する力を高める。
- (2) 校内マスコミの送り手としての自覚と創造性を育てる。
- (3) 学校生活の中におけるおいをもたらし、心のふれあいの場をつくる。
- (4) 現代社会における人としてのあり方、生き方を学ぶとともに、放送のはたす役割を考える。
- (5) 九州地区における校内放送活動の向上をはかる場をつくる。

3 主管 九州高等学校文化連盟放送専門部 熊本県高等学校文化連盟放送専門部

4 部門会場 市民会館シアーズホーム夢ホール  
熊本県熊本市中央区桜町1番3号  
TEL 096-355-5235 FAX 096-355-5239

5 事務局 熊本県高等学校文化連盟放送専門部 松井 義弘  
〒861-8082 熊本県熊本市北区兎谷3丁目5番1号 熊本県立熊本北高等学校内  
TEL 096-338-1110 FAX 096-339-9098  
E-mail matsui-y-fn@mail.bears.ed.jp

6 問い合わせ先 全九州高等学校総合文化祭熊本大会 放送部門実行委員会 実行委員長 深田 秀樹  
〒865-0064 熊本県玉名市中 1853 熊本県立玉名高等学校内  
TEL 0968-73-2101 FAX 0968-73-3436  
E-mail fukata-h-dk@mail.bears.ed.jp

7 大会日程 令和2年12月11日(金)～13日(日)

	時間	概要	会場 市民会館シアーズホーム夢ホール
11 (金)	13:30～16:30	放送部門受付	2階大会議室
	15:00～17:00	運営委員会(開催県・各県代表)	2階3・4会議室
	17:10～17:40	審査委員会	2階大会議室
12 (土)	9:25～9:40	開会行事 (1) 開会のことば (2) 部門長挨拶 (3) 優勝杯返還・レプリカ授与 諸注意・諸連絡	大ホール
	10:00～12:10	アナウンス部門準決勝	大ホール
	10:00～15:50	ラジオ番組部門準決勝	2階第5・6会議室
	10:00～16:10	テレビ番組部門準決勝	2階大会議室
	13:20～15:40	朗読部門準決勝	大ホール
13 (日)	8:00	決勝進出者・決勝進出作品発表	ホームページ(※下記参照)で発表
	9:50～10:40	アナウンス部門決勝	大ホール
	9:50～11:25	ラジオ番組部門決勝	2階第5・6会議室
	9:50～11:35	テレビ番組部門決勝	2階大会議室
	10:55～12:00	朗読部門決勝	大ホール
	13:00～13:40	閉会行事 (1) 成績発表・表彰 (2) 部門長挨拶 (3) 次期開催県挨拶(長崎県) (4) 閉会のことば 諸連絡	大ホール

※決勝進出者・決勝進出作品発表……熊本県高文連放送専門部HP (<https://ws.higo.ed.jp/hshouso/>)

8 コンテスト実施部門・エントリー数・決勝進出数

部門	エントリー数	決勝進出数
アナウンス	52名(各県6名 ただし、福岡県・開催県は8名)	20名程度
朗読	52名(各県6名 ただし、福岡県・開催県は8名)	20名程度
ラジオ番組	32作品(各県4作品)	10作品
テレビ番組	32作品(各県4作品)	10作品

## 9 表彰

	アナウンス	朗読	ラジオ番組	テレビ番組
優勝	1名	1名	1作品	1作品
	優勝杯・賞状			
準優勝	1名	1名	1作品	1作品
	トロフィー・賞状			
第3位	1名	1名	1作品	1作品
	トロフィー・賞状			
優良賞	各部門決勝進出者17名程度		各部門決勝進出7作品	
	賞状			
奨励賞			各部門5作品	
			賞状	
入賞 (全参加者)	全エントリー			
	賞状			

## 10 校内放送活動研究集会

各部門についての講評(後日電子データで各県に送付)及び研修と九州各県高校放送部活動の報告などを実施し、文化交流を深める。

## 11 参加資格

- (1) 開催年の12月現在、九州各県高等学校文化連盟加盟校に在学する生徒(ただし高等学校最終学年及びそれに該当する学年を除く)。また、以上の生徒が制作した作品に限る。
- (2) 各部門への参加は、各県高等学校文化連盟放送専門部の推薦によるものとする。
- (3) アナウンス・朗読部門への参加は、1名1部門とする。
- (4) 番組部門への参加は、1校1作品とする。ただし各県大会については、その限りではない。
- (5) 他のコンテストに出品した作品は、本大会に参加できない。また、本大会に出品した作品を、他のコンテスト等へ出品することは認めない。

## 12 各部門の課題・参加規定

### (1) アナウンス部門

- ① 自校のニュースや解説など、高校生活を語る若者の声を内容とし、原稿は自作したものに限る。
- ② エントリー番号・氏名を含め、1分10秒以上、1分30秒以内でアナウンスする。  
\*学校名は読まず、エントリー番号に続けて、発表者の氏名を読む。

### ③ 審査基準

(A) 校内放送に使用できる内容であること

(B) 審査の視点

#### ◆内容

- (ア) 素材の選び方は適当であるか。
- (イ) 文章表現は適当であるか。

#### ◆アナウンスの技術

- (ア) 自然な発声で、ニュースが聞き手に伝わるようにアナウンスしているか。  
・発声・発音・マイクの使い方
- (イ) 意味を正しく伝える抑揚表現ができていないか。  
・内容把握・プロミネンス・アクセント・イントネーション
- (ウ) 間(ポーズ)は適切か。  
・テンポ・ポーズ
- (エ) 歌い上げ・作り声など、不自然なアナウンスは高く評価しない。

(C) 100点法で総合的に採点する。

(2) 朗読部門

① 次の指定課題 4 作品から 1 作品を選び、朗読する。作品の脚色は一切認めない。

作品番号	1	2	3	4
書名	ブロードキャスト	驟り雨	城下の人	トニオ・クレイガー
著者名 (訳者名)	湊 かなえ	藤沢 周平	石光 真清	マン 浅井 晶子 訳
出版社	角川書店	新潮文庫	中公文庫	光文社古典新訳文庫

② エントリー番号・氏名・作者名・作品名を含め、1分30秒以上、2分00秒以内で朗読する。

※ 学校名は読まず、エントリー番号に続けて、発表者の氏名・作者名・作品名を読む。

※ 作品番号2については、短編名を読み、書名は読まない。

※ 作品番号4については、訳者名は読まない。

※ 抽出は文頭から開始し、文末で終了すること。一文途中での開始や終了は「変更したもの」とみなす。本文中の( )内は省略してはいけない。

③ 審査基準

(A) 審査の視点

◆ 内容

(ア) 作品の選定は適当であるか。

(イ) 朗読として適切な部分を抽出しているか。

◆ 朗読の技術

(ア) 自然な発声で、場面や心情が聞き手に伝わるように朗読しているか。

・発声 ・発音 ・マイクの使い方

(イ) 意味を正しく伝える抑揚表現ができているか。

・内容把握 ・プロミネンス ・アクセント ・イントネーション

(ウ) 間 (ポーズ) は適切か。

・テンポ ・ポーズ

(エ) ドラマ調・演劇調・一人芝居調など、過度に演出されているものは高く評価しない。

(B) 100点法で総合的に採点する。

(3) アナウンス部門・朗読部門に共通する事項

① 原稿3部を、後述の「13 参加申込／各部門提出物／締切一覧」で指定した期日までに提出する。ただし、原稿は返却しない。

② 規定の用紙(様式1-1、1-2)を使用し、袋とじ(仕上りA5判)とする。第1頁を表紙とし、本文は、第2頁以降に記入する。表紙の部門名上部の○を指定の色で塗りつぶす。アナウンスは「青」、朗読は「赤」とする。

③ 準決勝・決勝ともに、各自の原稿に、大会パンフレット記載の「課題原稿」を加えて発表する。

(4) ラジオ番組部門

① 作品は、6分30秒以上、7分00秒以内とする。

② 作品の最後に「制作は〇〇高校放送部(委員会)でした」とクレジットコールを入れる。

③ クレジットコールには、BGM・SEなど他の音声を重ねてはいけない。

④ 計時は、最初の音からクレジットコールの終わりまでとする。

⑤ 作品のメディア(媒体)・データ形式・作成方法は、以下のとおりとする。

(A) CD-RにCD-Audio形式で作成する。

(B) トラックは1つのみとする。

⑥ 番組進行表の表紙上部の○枠は「赤」で塗りつぶす。

⑦ 審査用CD-R1枚・バックアップ用CD-R1枚を作成し、それぞれに規定の情報(様式2)を記載する。作品はそれぞれ別のケースに入れ、規定のラベル(様式2)を貼って大会受付時に提出する。ただし、作品・番組進行表は返却しない。

## (5) テレビ番組部門

- ① 作品は、7分30秒以上、8分00秒以内とする。
- ② アスペクト比は、16:9（ワイド）とする。
- ③ テレビ局等の第三者が撮影した素材を主とする作品は、失格とする。
- ④ 作品の前後5秒間に、規定（様式3）のテストパターンを入れる。テストパターンは、大会ホームページよりダウンロードして使用する。
- ⑤ 作品は、再生ボタンで再生が始まるようにする。メニューを入れない。
- ⑥ 計時は、テストパターン（カラーバー）を除いた本編部分について行う。
- ⑦ 作品のメディア（媒体）・録画方法・データ形式・作成方法は、以下のBD-RもしくはDVD-Rのいずれかとする。
  - (A) ハイビジョン形式・BD-R（BD-RE形式・MPEG-2またはMPEG-4 AVC/H.264）とする。
    - ・BD-Rは、必ずクローズ（ファイナライズ）処理を行い、追記できないディスクにする。
  - (B) SD形式・DVD-R（DVD-Video形式）とする。
    - ・家庭用HDレコーダーでDVD-Videoを作成した場合は、必ずクローズ（ファイナライズ）処理を行い、汎用のDVD再生機で再生できる状態にする。
- ⑧ 作品提出の際、データの互換性に留意し、作成した機器だけでなく、市販のプレイヤー等複数の機器で再生できることを確認の上、提出する。
- ⑨ 番組進行表の表紙上部の○枠は「青」で塗りつぶす。
- ⑩ 審査用メディア1枚・バックアップ用メディア1枚を作成し、それぞれに規定の情報（様式2）を記載する。作品はそれぞれ別のケースに入れ、規定のラベル（様式2）を貼って大会受付時に提出する。ただし、作品と番組進行表は返却しない。

## (6) ラジオ番組部門・テレビ番組部門に共通する事項

- ① 高校生活に素材を求めた作品、あるいは高校生活と地域社会とのかかわりを考えた作品で、高校生の視点で描いた独創的な作品であり、それぞれのメディアの特性を生かした作品とする。ドラマ調の場合、出演者は自校生徒、かつ前述の「11 参加資格」の条件を全て満たす者のみに限る。
- ② 審査基準
  - (A) 校内放送に使用できる内容であること
  - (B) 審査の視点
    - ◆テーマ（伝えたい内容）

高校生ならではの視点で、高校生を取り巻く環境の中からテーマを設定し、それを番組の中で効果的に表現しているか。
    - ◆制作技術

(ア)メディア選択	(イ)制作方法	(ウ)取材の方法や努力	(エ)企画・構成
(オ)演出・編集	(カ)音声や効果音の使い方	(キ)内容伝達力	(ク)番組進行表の作成
  - (C) 100点法で総合的に採点する。
- ③ 作品のタイトルは、副題も含めて15文字以内を厳守する。

※作品名が英数字のみの場合は、半角文字で最大30文字（スペース含む）までとする。
- ④ 番組進行表は、後述の「16 様式規定」で作成し、「13 参加申込／各部門提出物／締切一覧」で指定した期日までに1部を提出する。
  - 1頁（様式4-1）学校名・作品名・時間・制作意図（200字程度）・スタッフ／キャスト（学年）
  - 2頁（様式4-2）必要枚数を綴じ合わせたCUEシート
  - 3頁（様式4-3）使用著作物一覧

※必要に応じ、音源使用許諾（様式4-4）・取材許諾・著作物提供許諾（様式4-5）を添付する。  
※必要に応じ、著作権処理確認資料（右上に著作物番号を朱書きする）を添付する。
- ⑤ 作品のメディア本体にはラベルを貼らず、以下の項目をディスク自体に直接記載（プリンタによる直接印字／ペンによる手書き）する。バックアップには「バックアップ」と明記する。

○部門名 ○エントリー番号 ○県名 ○学校名 ○作品名 ○メディアの種類

- ⑥ 作品の中で用いる音楽・絵画・写真等の著作権を伴う著作物については、著作権・著作隣接権の処理を本大会開始までに確実に済ませておく。特に音楽は、自作自演もしくは著作権フリーの楽曲を用いることが望ましい。著作権を伴う著作物については、一覧を番組進行表の末尾に添付する。
- ⑦ いわゆる著作権フリーの音源素材等であっても、インターネット上のものを利用することは厳禁とする。なお、著作権フリー素材とインターネット上の素材の使用については、「校内放送研究 第67回NHK杯全国高校放送コンテストならびに校内放送活動研究集会（以下、NHK杯とする）要項」の20～21ページで定められたものと同じとする。
- ⑧ JASRAC への手続きと支払いは出場校が行い、関係書類のコピーを番組進行表の末尾に添付する。
- ⑨ 参加作品の著作権は、制作者（応募した学校）に帰属する。
- ⑩ その他の詳細に関しては、NHK杯要項の17～22ページの注意事項に準じる。様式等については、本大会規定のものを使用する。
- ⑪ 本大会に出品するラジオ番組・テレビ番組の制作意図（番組進行表に記載）は、各県事務局が規定のファイルにまとめて入力し、後述の「13 参加申込／各部門提出物／締切一覧」で指定した期日までに提出する。
- ⑫ 決勝では、作品再生前に代表生徒が登壇する。進行係が学校名と作品名のみ発表する。

### 13 参加申込／各部門提出物／締切一覧

- (1) 大会事務局（放送部門実行委員会）への参加申込など全ての事前提出は、各県放送専門部事務局が一括して行う。
- (2) 参加申込には、別紙のエントリー番号を使用する。番号の割り振りは、各県専門部で行う。
- (3) 参加校顧問……下記①～⑦を指定の宛先に提出（データ送信／郵送／持参）する。

	内容・様式	宛先	提出方法		提出締切 (必着)
			データ 送信	郵送	
①	全部門共通参加申込書（共通様式2）	各県高文連事務局		○公印	11/13 金
②	同意書（共通様式4）	各県高文連事務局		○	11/13 金
③	学校参加申込データ*	各県放送専門部事務局	○		11/18 水
④	エントリーデータ	各県放送専門部事務局	○		11/19 木
⑤	アナウンス・朗読原稿3部／番組進行表1部	各県放送専門部事務局		○	各県指定
⑥	番組制作意図データ	各県放送専門部事務局	○		11/20 金
⑦	番組作品1枚・バックアップ1枚	大会受付		持参	12/11 金

【備考】\*③「学校参加申込」は、出場権獲得校の出場意志の表明・確認に利用する。各県独自の様式を利用してもよい。

- (4) 各県放送専門部事務局担当者……下記⑧～⑪を指定の宛先に提出（データ送信／郵送）する。

	内容・様式	宛先	提出方法		提出締切 (必着)
			データ 送信	郵送	
⑧	全九州高校総文祭推薦書（共通様式1）*	各県高文連事務局	○		11/2 月
⑨	エントリーデータ（〇〇県）	放送部門実行委員会*	○		11/20 金
⑩	番組制作意図データ（〇〇県）	放送部門実行委員会*	○		11/24 火
⑪	アナウンス・朗読原稿／番組進行表（〇〇県）	放送部門実行委員会*		○	11/26 木

備 \*⑧の提出→各県高文連から出場校に派遣依頼を送付→①の提出→開催県高文連が取りまとめるという流れ  
考 \*⑨⑩⑪の宛先（放送部門実行委員会）は、1ページの「問い合わせ先」です。

### 14 宿泊等申込について

別紙「第4回全九州高等学校総合文化祭＜放送部門＞宿泊・弁当 お申込要項」に基づき、手続きを行ってください。

【取扱業者】 株式会社TEAM 本社配宿管理センター

〒862-0950 熊本市中央区水前寺6-32-8 熊本太陽ビル2階

TEL:096-237-6763 FAX:096-237-6764 E-mail:yoyaku@k-team.jp

営業時間：平日9:00～18:00（土日祝日休み）

15 エントリー番号表

	アナウンス部門				朗読部門				ラジオ番組部門			テレビ番組部門		
熊本	5	11	17	23	2	10	14	20	1	9	17	6	14	22
	29	35	41	47	26	32	38	44	25			30		
長崎	7	15	25	33	8	18	28	36	6	14	22	4	12	20
	43	51			46	52			30			28		
佐賀	2	12	20	30	3	11	21	29	4	12	20	3	11	19
	38	48			39	47			28			27		
大分	1	9	19	27	7	17	27	35	5	13	21	8	16	24
	37	45			45	50			29			32		
福岡	4	10	16	22	1	9	13	19	2	10	18	7	15	23
	28	34	40	46	25	31	37	43	26			31		
沖縄	6	14	24	32	4	12	22	30	3	11	19	1	9	17
	42	50			40	48			27			25		
鹿児島	8	18	26	36	6	16	24	34	7	15	23	5	13	21
	44	52			42	49			31			29		
宮崎	3	13	21	31	5	15	23	33	8	16	24	2	10	18
	39	49			41	51			32			26		

16 様式規定

	様式番号	内 容
規定1 アナウンス・朗読	1-1	表紙(右ページ)・原稿用紙(左ページ)
	1-2	アナウンス・朗読部門 原稿用紙
規定2 ラジオ・テレビ	2	ラベル
規定3 テレビのみ	3	テストパターン/カラーバー(16:9/HD・SD仕様)
規定4 ラジオ・テレビ 番組進行表	4-1	表紙(制作意図・スタッフ・キャスト・確認欄)
	4-2	CUEシート
	4-3	使用著作物一覧
	4-4	音源使用許諾申請書(参考様式)
	4-5	取材許諾・著作物提供許諾申請書(参考様式)
規定4はすべてA4サイズ。左上1箇所をホチキスで綴じる。両面印刷不可		

※様式は、熊本県高等学校文化連盟のホームページからダウンロードできます。

<https://ws.higo.ed.jp/bunkarenmei/>

## 17 新型コロナウイルス感染予防対策

大会関係者（大会役員・審査員・大会参加生徒・引率者・大会事務局が認めた者）は全員、九州高等学校文化連盟が定める「新型コロナウイルス感染症に係る大会ガイドライン」および本大会事務局が定める「新型コロナウイルス感染予防ガイドライン」を遵守すること。

### 【大会前】

- 大会に参加できる生徒は、各県から提出された参加申込書に記載のある者で、保護者署名・捺印の同意書（共通様式4）を各県高文連事務局に提出した者に限る。
- 会場に入場できる者は、大会関係者のみとする。
- 大会関係者全員、大会当日から2週間前からの行動歴（いつ、どこで誰に会ったなど）を記録しておく。
- 参加者に感染者が発生した場合は、保健所の聞き取りに協力する。
- 濃厚接触者となった場合は、接触してから2週間を目安に自宅待機の要請が行われる可能性がある。
- 大会当日より2週間前までに37.5℃以上の発熱が3、4日続いた日がある者や、咳や倦怠感などの風邪症状がある者については会場への立ち入りを認めない。
- 参加者自身が感染対策を徹底していても、感染リスクがある。
- 引率者は、参加生徒の氏名および連絡先を把握しておく。
- 引率者は、新型コロナウイルス接触感染確認アプリ（COCOA）をインストールしておく。また、できるだけ参加生徒も同アプリをインストールしておく。

### 【大会期間中】

- 大会期間中毎朝、大会関係者全員の検温・健康観察（発熱や風邪、味覚障害等の症状の有無）を行い、37.5℃以上の発熱がある者や体調不良者（風邪、味覚障害等の症状がある者）の会場への立ち入りを認めない。
- 大会関係者全員に対し、マスクの着用、こまめな手洗い、手指消毒などの感染防止対策を求める。ただし、アナウンス部門・朗読部門出場生徒については、発表時はマスクを外す。
- 各会場への入場時は、入口で検温後、その場で大会運営係が配付する「入場カード」に入館時間を記入する。また、退場時は着席した座席の番号と退場時間を記入して大会運営係に提出する。
- 待機場所は、市民会館シアーズホーム夢ホール（以下、市民会館と記載）のロビーを各県ごとに割り振る。ただし、原則としてロビーや通路に留まらない。
- 受付時の整列では、前後2メートル以上の間隔をとる。また、接触回避のため、受付時の配布物、回収物、弁当の手渡し等は行わない。
- 「密」を避けるため、会場ごとに座席指定を行う。また、ロビーや他の部屋でのモニター設置は行わない。
- 発声練習は、市民会館の外で行う。その場合、2メートル以上の間隔をとり、対面にならないようにする。
- アナウンス部門・朗読部門については、大ホールのステージ奥に左右2カ所の発表場所を設け、飛沫防止シート等の飛沫防止対策を行う。また、客席前列4列の座席を取り外し、客席との距離を取る。さらに、発表は交互に行い、使用していない発表場所のマイクは、もう片方で発表している間に消毒を行う。
- 各会場前後左右のドアを開け、空調を使用する。
- 各部門の代表生徒の入退場は動線を別にし、接触を防ぐ。なお、大ホールについては、ホール上手の通路から直接ステージへ進み、終わったら下手側から直接ホワイエへ退場する。客席は通過させない。
- 発表の時間帯以外は会場に入場することはできない。
- 昼食・発表後の時間は、市民会館内に留まらない。
- ロビーでの「密」を避けるため、決勝の全部門発表終了後、大会参加生徒・引率者全員、市民会館の外に退館させ、その後改めて一人ずつ検温・消毒を行い、入場カード記入後に入館させる。
- 用具の共有や貸し借りは、原則行わない。（共有して使用した物や設備の適正な消毒や清掃を行う。）
- ごみ処理に伴う感染リスクを防止するため、すべてのゴミを持ち帰る。

### 【大会後】

- 大会後2週間は体調観察を行い、体調に異変があった場合は報告し、大会後も保健所等の聞き取りに協力する。